

報道解禁指定 2月22日(火)14時以降 (新聞は2月23日(水)付朝刊以降)  
報道解禁日時を厳守していただきますよう、お願い致します。



京都大学  
KYOTO UNIVERSITY

# News Release



香川大学  
Kagawa University

令和4年2月22日

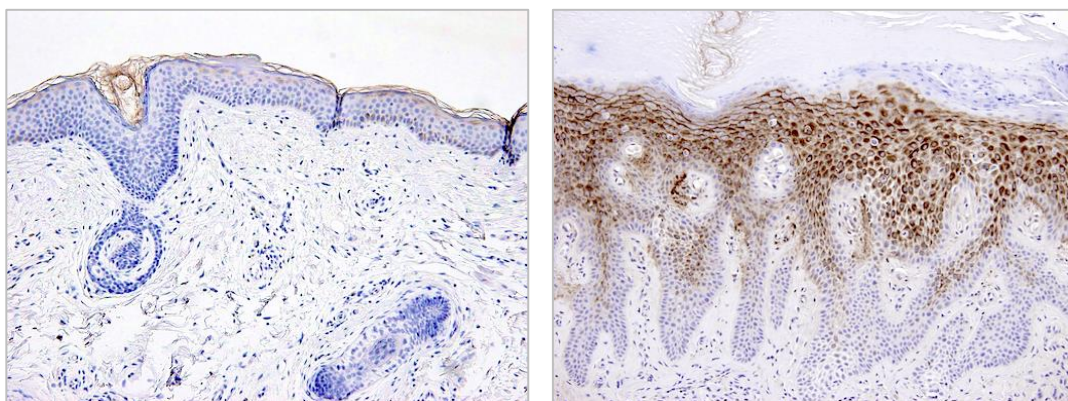
## 皮膚表面で産生されるペプチドのはたらきを発見

### アトピー性皮膚炎、乾癬でも

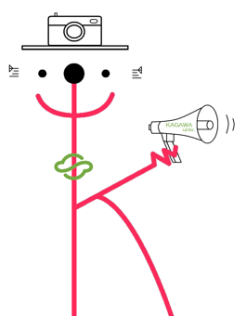
香川大学医学部皮膚科学の大日輝記教授は、京都大学や、理化学研究所との国際共同研究で、アトピー性皮膚炎の体表で大量に産生される C10orf99 ペプチドが、皮膚のバリアを低下させること、さらに炎症をおこしやすくすることを発見し、研究成果を国際学術誌に報告しました。

アトピー性皮膚炎や乾癬などの慢性の皮膚炎では、皮膚表面の「表皮」と、皮膚の免疫細胞との間に悪循環がおこって、炎症が慢性化していると考えられています。香川大学皮膚科学の大日教授、京都大学皮膚科学の椛島健治教授らの研究チームは、C10orf99 というペプチドが、これらの皮膚炎で共通して、表皮の体表近くで大量に産生されることを見つけました。さらに、C10orf99 ペプチドは皮膚のバリア成分の産生をへらすこと、また、C10orf99 ペプチド自体が炎症をおこす作用をもつことを発見しました。

このペプチドのはたらきをおさえることで、新しい治療やスキンケアにつながる可能性がある、と大日教授は話しています。



皮膚組織での C10orf99 ペプチドの産生の様子(茶色の色素で染色)。健康な皮膚では目立たない(左)。アトピー性皮膚炎の皮膚では、体表に近い部分で C10orf99 ペプチドが大量に産生される(右)。



- 発表論文：  
Dainichi et al. C10orf99/GPR15L Regulates Proinflammatory Response of Keratinocytes and Barrier Formation of the Skin. *Front Immunol* 2022. DOI: 10.3389/fimmu.2022.825032
- お問い合わせ先 香川大学医学部 皮膚科学 大日輝記  
TEL: 087-832-2162 FAX: 087-832-2163 E-mail: hifuka-m@kagawa-u.ac.jp  
※上記不在の場合：香川大学 医学部 総務課 広報法規・国際係  
TEL: 087-891-2008 E-mail: kouhou-m@kagawa-u.ac.jp